

CHILDCARE LEAVE FOR MEN

長崎県に勤務する男性医師の育児休業取得者コメント集 Vol.2

Nagasaki University Hospital
A collection of comments from male doctor who took childcare leave

We will promote the taking of childcare leave for men!
男性の
育児取得を推進します!



2022年10月1日から

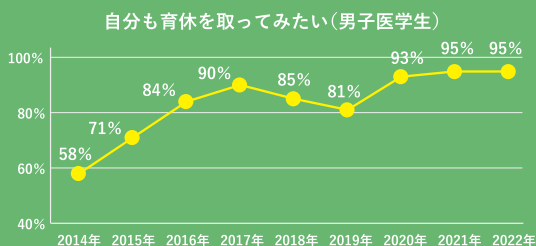
産後パパ育休(出生時育児休業)が創設されました!

メディカル・ワークライフバランスセンターでは、長崎県の病院で育児休業を取得した男性医師へインタビューやアンケート調査を行い、コメント集にまとめました。

新しく創設された「産後パパ育休」を利用した医師の経験談を、是非ご一読ください。

男性の育児休業取得を推進し、安心して仕事と生活が両立できる職場づくりを目指しましょう。

長崎大学医学部の男子学生の育児取得願望は高まっている!



調査:長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター
長崎大学医学部3年生を対象に行った学生講義の受講後アンケート結果

男子医学生は
9割が
育児取得希望!

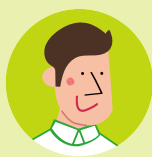


あじさいプロジェクトWebサイトに公開してます!
ホーム>長崎県内病院の取り組み>私たちのワークライフバランス実践術~男性の育児休業取得編~





- ①年齢
- ②お子さんの数
- ③取得時期
- ④取得期間
- ⑤勤務地



A 医師

- ①30代
- ②子ども1名
- ③第1子9か月
- ④31日間
- ⑤長崎市



B 医師

- ①30代
- ②子ども1名
- ③第1子11か月
- ④5日間
- ⑤長崎市



C 医師

- ①30代
- ②子ども3名
- ③第3子出生
- ④25日間
- ⑤長崎市



D 医師

- ①30代
- ②子ども1名
- ③第1子退院後
- ④30日間
- ⑤佐世保市



E 医師

- ①40代
- ②子ども4名
- ③第4子出生
- ④18日間
- ⑤佐世保市

Q: 育休取得のきっかけは？



以前から子どもが産まれたら取得したいと思っていた。



職場の先輩方が取得していた。上司より取得を後押ししてもらった。



上司から案内があり、妻が不在時に、第1・2子を両親に全て任せず、自分で面倒を見る選択があることに気づいた。



妻の妊娠を上司に報告した際、男性も育休を取得できる事を教えてもらった。



子どもの数が多い。親族からのサポートが受けられない。

Q: 育休取得して、良かったことは？



妻が働きだす前のタイミングで育児休業を取得し、有効利用して求職活動や保育園の見学等を夫婦2人で行うことができた。



そうしないと物理的に家の中のことが回らない。「良かった」というよりも「必須」。



1日中息子と過ごすことができ、日頃妻が日常的に行ってくれていた家事や育児を一緒に行うことで、その大変さを知ることができた。また、その大変さを知ること、より育児に関わっていかなければならないと強く感じられたことが大きかった。



育休を機に、子ども達や妻目線での一日の過ごし方を知ることができた。これまでうまくイメージできていなかったと思う。仕事と家庭の両立のためにも、想像力が大事だと思う。良いきっかけにしたい。



妻の退院後すぐに育児休業を取得したが、産後しばらくは妻の体調が優れないことが多く、この時期に取って良かった。また、慣れない育児は緊張の連続で悩んだり疲れたりしましたが、そういったことも妻と共有し理解することができた。育休が明けても家で1日のスケジュールや、やるべきことを把握できているし、なるべく早く帰ろうと思ひ、率先して育児や家事に取り組むことができた。家族3人で過ごせたのは貴重な時間だったと、今でも思う。

Q: 育休中の担当業務の調整は、どのようにしましたか？



グループ制で診療しているため、自身で業務を調整する必要がなかった。



担当患者さんの引継ぎはあったが、グループ診療のため、特に大変であることはあまりなかったように思う。



外来は他の先生に代わってもらったが、できるだけ負担にならないように育休中の外来患者数は前もって減らした。病棟は出産予定日の前から新規の入院や急患の受け持ちを減らしてもらい、スムーズに育休に入ることができた。



外来診療に関しては可能な限り予約を減らし、育休中に受診する予定の患者についてはすべて申し送りを記載しておいた。入院患者についても申し送りを記載。

長崎大学初!!

産後パパ育休取得第1号!!

長崎大学病院
心臓血管外科
三浦 崇 教授
(40代)



Q: 周囲(同じ診療科の医師など)から反応はありましたか？

うち(心臓血管外科)の診療科は、男性の育休取得がスタンダードになっていますので、後輩達は、私が取得してホッとしたようです。個人的には、教授に就任して1か月程度(2022年9月1日付就任)でしたので、休業に伴う手術への影響などが不安でした。そこで、河野 茂学長、そして中尾 一彦病院長に取得の意向をお伝えしました。お二人の先生からは取得への後押しがあり、大変、心強かったです。『上司の理解』の大切さを再確認しました。

Q: 他の診療科にも育休取得をおすすめしたいですか？

おすすめしたいですね。うちの心臓血管外科は3割が緊急手術で急な呼び出しもあるため、仕事に対しての家族の理解・支援がないと成り立ちません。医師としてイキイキと働き続けられるように、心臓血管外科の医師には有給休暇もできる限りとって欲しいし、引き続き男性育休を取得してもらおう方針です。とはいえ、それぞれの科の状況や事情もあるでしょうから「育休取得を検討する価値は高いですよ!」というメッセージになります。男性育休は、いろんな意味で日本の将来に好影響を与える制度だと思います。家庭円満(夫婦間の仕事への理解向上など)、少子化対策でしょうか。日本の育休が進み、子ども達が親の世代になったときにどうなっているのか、今から100年後はどうなっているのか、とても楽しみです。

Q: 育休を取得して感じる プラス面・マイナス面はどんなことですか？

プラス面は、普段、妻がどれだけ頑張っているかがよくわかったことです。大変さは理解しているつもりでしたが、実際に体験してみて、妻の有難さと偉大さを再確認しました。感謝の気持ちでいっぱいです。マイナス面は、仕事が気になったことですが、それは教室の先生方や診療看護師などがしっかりカバーしてくれました。私のような仕事好きな人は、長期間休むと禁断症状が出て変調をきたすかもしれませんので、複数回に分けて短期間の取得から試してみることが良いように感じました。来月は新たに1週間取得する予定にしていますし、半年後位にも1週間取得しようかなと考えています。



(2022年10月28日インタビュー)

